

令和7年度 今井小学校教育目標

知・徳・体の調和がとれた人間性豊かな今井っ子の育成

目指す児童像

自ら考える子

自ら正しく判断し、
深く追究する

思いやりのある子

生命を尊び、
美しいものに感動する

力いっぱいやりぬく子

健康でたくましく
がんばりぬく

目指す学校像

自然を大切にし、安心・安全な
環境を確保した、活気ある楽しい
学び舎

- ・複式学級の利点を生かす
- ・近隣の学校との交流
- ・地域から学ぶ
- ・専門家に学ぶ

目指す教師像

不易と流行を大切にし、学
び、高め合う教師集団
・基礎基本の充実を図る
・ICTを活用する
・現職教育を充実させる

経営方針

＜令和7年度 重点努力目標＞

- 1 自らの考えを正しく伝えたり深めたりする力を培うために読書推進、読解力の向上を図り、言葉の力を育成する。
- 2 自ら学ぶ態度を育成し、児童が意欲的に生き生きと活動できる学習の充実を図る。
- 3 野鳥を通じた自然愛護、みどりの少年団活動などの伝統的な取組である環境教育を大切に、SDGsにも意識した、地域を愛する心を育てる。
- 4 体力の向上および健康増進に積極的に取り組む態度を育てる。
- 5 他校、他施設等との交流を通して、児童の社会性やコミュニケーション力の伸長を図る。
- 6 健康・安全意識の高揚と自己管理能力の育成を図る。
- 7 ホームページや学校新聞「なるさわ」を継続的に更新し、学校情報を積極的に発信するとともに、地域と連携し、郷土に根ざした豊かな学びを実現する。
- 8 小規模校のメリットを生かしたきめ細かな取組を継続し、そのよさを児童に反映させる。
- 9 児童数減少への課題点や働き方改革を見据え、行事の精選と取組の工夫を図る。
- 10 多忙化解消に向け、教育活動を精選し在校時間を減らす。
- 11 かわせみ会（学校関係者評価委員会）とやませみ会（地域学校協働活動本部）との連携を図り、地域との交流を行う。

基礎・基本の充実

- ・ドリルで反復練習
- ・朝のはげみ学習

読書活動の推進

- ・読み聞かせ、図書室利用の充実
- ・読書推進計画策定
- ・図書委員会活動、もくもく読書

健康・安全教育

- ・保健指導による健康への意識向上
- ・警察官による交通安全指導の充実
- ・災害への備え

自然環境活動

- ・みどりの少年団
- ・果樹園農家体験
- ・探鳥会、鳥検定
- ・花の栽培
- ・ツバメの営巣調査

特別活動

- ・わくわく活動での体力向上
- ・なかよしグループ活動（縦割り活動）

他校との交流活動

- ・小規模校三校交流授業（栗栖小・池野小）
- ・合同自然教室（池野小）
- ・城東小との交流授業

地域に学び、共に生きる

- ・地域学校協働活動の推進
- ・里山学研究所の活用
- ・今井区、今井コミュニティとの連携
- ・老人クラブ、障害者施設との交流

令和7年度 現職教育計画

I 研究主題

学び合い、高め合う今井っ子の育成 ～「思い」や「考え」を大切にしたい授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

令和6年度から、「思い」や「考え」を大切にしたい授業づくりを意識して現職教育を進めてきた。6年度の成果として、児童が自身の思いや考えをしっかりとつとめることができるようになってきた。その反面、思いや考えを伝え合ったり、他者の思いや考えを聞いて個や集団の考えを広げ深めたりすることについては、まだまだ課題が残った。

そのため、令和7年度も研究主題を継続しつつ、思いや考えを伝え合ったり、他者の思いや考えを聞いて個や集団の考えを広げ深めたりするための手立てを講じながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究を進めていきたい。

III 本年度の重点目標

1 重点目標

思いや考えを大切にしたい授業づくりについて、話し方や聴き方を意識して研究を進めることで、児童が主体的に課題解決するための授業実践に取り組む。

2 目標に迫るための手立て

(1) 指導方法の工夫・改善

①個の思いや考えをしっかりとつとめる場面の設定

- ・発問の工夫
- ・適切な時間の確保
- ・個に応じた支援

②個の思いや考えを伝え合う場面の設定

- ・児童同士の対話
- ・児童と教師の対話
- ・理由や根拠を明確にした話し方
- ・聴き方

③他者の思いや考えを聞いて、個や集団の考えを広げ深める場面の設定

- ・多様な考えを比較し、思考の再構築
- ・他者との練り合いや練り上げ

(2) 話し方・聴き方の指導

話し方・聴き方の指導を全校で統一し、思いや考えを伝え合ったり、他者の思いや考えを聞いて個や集団の考えを広げ深めたりすることを意識できるようにする。

(3) 授業研究

全職員による指導案検討、授業研究、研究協議を年3回実施し、互いの力量向上に努めるとともに、手立ての有効性などを検証する。

3 目標に迫るための基盤を育む取組

(1) 基礎・基本を定着させるための取組

- ①「読み・書き・計算」など、授業の中で定着を図る時間の設定
- ②目的に応じた朝のはげみ学習の活用

(2) 読解力を向上させるための取組

- ①読書活動の充実
- ②言葉を大切にした授業
- ③読解力を育む教材の活用

(3) 豊かな人間関係を育むための取組

- ①一人一人を大切にした学級経営
- ②異年齢集団での縦割り活動（輪集会、なかよし清掃、通学班）
- ③他校との交流活動

IV 年間計画

- 1 学校訪問 11月 6日（木）午後
- 2 要請訪問 7月 7日（月）5限
- 3 研究授業 11月20日（月）5限
12月11日（木）5限

4 年間計画

月	主 な 活 動 内 容
4	エピペン研修（4/4） 犬山読解力について（4/4） 情報セキュリティ研修（4/9）
5	ICT活用研修（5/19）
6	要請訪問指導案検討（6/12）
7	前期評価について（7/3） 要請訪問・研究協議（7/7）
8	市教研（8/19）
9	心肺蘇生法（9/4）
10	研究授業①指導案検討（10/20）
11	研究授業①研究協議（11/20） 研究授業②指導案検討（11/27）
12	研究授業②研究協議（12/11）
1	全期評価について（1/8） 実技研修（1/19）
2	現職教育の振り返り・評価（2/19）
3	次年度の現職教育の方向性（3/12）